

## 西欧中世文書の史料論的研究：平成21年度研究成果 年次報告書

岡崎, 敦  
九州大学大学院人文科学研究院：助教授

ディルケンス, アラン  
ブリュッセル自由大学：教授

丹下, 栄  
下関市立大学経済学部：教授

大浜, 聖香子  
九州大学大学院人文科学府：大学院生

他

<https://hdl.handle.net/2324/1932628>

---

出版情報：2010-03  
バージョン：  
権利関係：

## メルジオフスキー教授、ヴィダー教授の研究会に寄せて

岩波敦子

本年度外国人研究者の報告会として、11月21日(土)午後、慶應義塾大学日吉キャンパスにてドイツから二人の研究者マーク・メルジオフスキー教授、エレン・ヴィダー教授を招き、例会を開催した。翌22日(日)には同じく日吉キャンパスにて、人間文化機構総合推進事業「人間文化研究資料の多元的複眼的比較研究」研究会(研究代表:渡辺浩一教授)との共催で研究会が開催された。

報告者のマーク・メルジオフスキー教授 Mark Mersiowsky とエレン・ヴィダー教授 Ellen Widder は、ともに現在ドイツ中世史学界の第一線で活躍する研究者であり、学術誌だけでなく、国際学会、研究会等幅広く積極的に研究成果を発表しているが、ここで簡単に二人の略歴を記しておく。

マルク・メルジオフスキー教授は、1963年ヘアフォード生まれ、ドイツ・ミュンスター大学、マールブルク大学、オーストリア・ウィーン大学にて中・近世史、歴史補助学、芸術史を学んだのち1992年ミュンスターで博士号を取得、その後、ミュンスター、パーダーボルン、テュービンゲン大学で教鞭をとった後、2002年ミュンスターで教授資格論文を提出・受理され、ミュンスター大学のほか、2003年パリのEcole Nationale des Chartes 客員教授、2006/07年シュトゥットガルト大学、2006/07年グラーツ大学で教鞭をとり、2009年にはインスブルック大学から教授招聘を受けている。2003年からはドイツ・ミュンヘンに本拠地を置き、19世紀以来ドイツ中世史料編纂を牽引してきたモニュメンタ・ゲルマニアエ・ヒストリカ研究員として、ハインリヒ7世の証書編纂プロジェクトに携わっている。

メルジオフスキー教授は、その博士論文(*Die Anfänge territorialer Rechnungslegung im deutschen Nordwesten. Spätmittelalterliche Rechnungen, Verwaltungspraxis, Hof und Territorium, Stuttgart 2000 (Residenzenforschung 9)*)が中世後期の会計記録における行政実践をテーマとしていたことから分かるように、その研究重点領域は初期中世から後期中世にまで及び、中でもカロリング朝の証書学、古書体学、とりわけルードヴィヒ敬虔帝の証書に関する緻密な実証研究で知られる。2002年ミュンスター大学に提出された教授資格論文(*Privileg und Empfänger. Karolingische Herrscherurkunden und politische Kommunikation im Frühmittelalter*「特権と受領者:カロリング期の君主証書と初期中世における政治コミュニケーション」)の改訂テキストが、MGH Schriften シリーズ第60巻として現在出版準備中である(*Die Urkunde in der Karolingerzeit. Originale, Urkundenpraxis und politische Kommunikation*「カロリング時代の証書:オリジナル、証書実践、政治コミュニケーション」)。また19世紀以来ドイツの中世史料編纂を牽引してきたモニュメンタ・ゲルマニアエ・ヒストリカ研究員として研究組織内からその活動に携わってきたメルジオフスキー教授は、共編著という形で2003年に開催された展覧会カタログ「テオドル・モムゼンとモニュメンタ・ゲルマニアエ・ヒストリカ」Theodor Mommsen und die Monumenta Germaniae Historica. Katalog zur Ausstellung der Monumenta Germaniae Historica anlässlich des 100. Todestages von Theodor Mommsen am 1. 11. 2003, Konzeption und Kataloggestaltung Arno Mentzel-Reuters, Mark Mersiowsky und Peter Orth, München 2003 を発表している。研究業績はMGHのHPにupされているので参照されたい。

<http://www.mgh.de/mitarbeiter/mitarbeiter/prof-dr-mark-mersiowsky/schriftenverzeichnis/>

エレン・ヴィダー教授は、ミュンスター大学で歴史学、地理学、教育学、芸術史を学び、1986年カール4世の巡回統治をテーマにミュンスター大学で博士号を取得後、1986年から1989年まで同

大学の特定研究領域 231「中世の実践的文書化の担い手、領域、形式」プロジェクトの研究員、1989年から95年まで同大学助手を務め、1996年同大学に教授資格論文を提出・受理されている。1996年以降ミュンスター大学のほか、レーゲンスブルク大学、ベルリン・フンボルト大学で教鞭をとり、1997年10月にはテュービンゲン大学中世史担当教授に就任している。

ヴィダー教授の研究重点領域は、後期中世の帝国史、制度史、中世都市史、後期中世の宮廷史、後期中世の行政史等多岐に渡り、その博士論文(*Itinerar und Politik. Studien zur Reiseherrschaft Karls IV. südlich der Alpen*, 「移動ルートと統治：アルプス以南におけるカール4世の巡回統治に関する研究」Köln 1993) が出版されている。業績リストは以下の URL を参考にされたい。

<http://www.mittelalter.uni-tuebingen.de/?q=personen/widder/widder.htm>

経歴から分かるように、両教授ともドイツ・ヴェストファーレン州にあるミュンスター大学で学んでいる。二人の博士論文指導教授は、ハンザ史の重鎮ハインツ・シュトープの後任としてミュンスター大学付属の比較都市史研究所所長に就任したペーター・ヨハネク教授である。ヨハネク教授は、ヴェルツブルク司教の証書を研究した博士論文(*Die Frühzeit der Siegelurkunde im Bistum Würzburg, Würzburg 1969*) で高い評価を受けた歴史学者であるが、いわゆる歴史補助学と並んで、後期中世都市史に関する多くの共・編著で知られる。ヨハネク教授自身ヴィーン大学で史料学を学んでおり、師の研究の二つの主軸のうち、歴史補助学をメルジオフスキー教授が、後期中世都市史研究をヴィダー教授が引き継いだ形となっている。メルジオフスキー教授・ヴィダー教授はご夫婦でもあり、数冊の共著を著している。

今回の研究会では、メルジオフスキー教授が「カロリング帝国における政治コミュニケーション：文書形式学の視点」、ヴィダー教授が「中世後期の歴史学と文書形式学」というテーマで報告されたが、いずれも翌日人間文化機構総合推進事業「人間文化研究資料の多元的複眼的比較研究」研究会および国文学研究資料館「東アジアにおけるアーカイブズ資源研究プロジェクト」との共催で開催された研究会(「中世古文書学(文書形式学)の現在 —ドイツと日本— The Diplomats on Medieval Germany and Japan in the process of Renewal」)での報告(メルジオフスキー教授「ドイツ語圏における文書形式学とモノメンタ・ゲルマニアエ・ヒストリカ」、ヴィダー教授「尚書局長と尚書局：中世後期の文字形式学への新しい接近」と補完関係にある。それぞれが、個々の研究対象を、研究史と個別研究の両面からマクロ・ミクロ的視点で扱ったわけが、とりわけ、21日(土)のヴィダー教授の後期中世の史料研究に関する報告と22日(日)のメルジオフスキー教授のドイツにおける文書形式学とモノメンタ・ゲルマニアエ・ヒストリカにおける研究史を概観する報告とが密接に関連している。

モノメンタ・ゲルマニアエ・ヒストリカのこれまでの研究方針を総括し、現在進行中の研究プロジェクト情報を伝えると同時に、カロリング朝の君主文書に関する最新の研究成果であるメルジオフスキー教授の報告と、中世後期という未編纂史料が多く残る研究対象時期に対し、初期中世史料を念頭に進められてきたドイツ文書形式学の手法を適用する危険性を鋭く指摘し、1970年代以降のドイツ後期中世研究の学会動向を踏まえ、尚書局研究の限界と可能性を的確に整理したヴィダー教授の報告は、現在日本の西欧中世史研究者の関心を引き起こしている史料論研究に、自らが研究対象としている史料の前提を安易に他の史料へ転用しがちな態度に警鐘を鳴らすと同時に、西欧史料学研究の最前線に多角的視座から光を当てるものといえるだろう。